

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

大阪市立生魂小

学校

児童数

58

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.92	18.00	27.07	35.96	45.62	9.91	146.65	19.48	49.00
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	16.57	15.50	35.83	35.21	33.59	9.81	138.50	14.22	51.07
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

男子は全種目において全国平均を下回り、体力合計点は全国平均より約4.0ポイント低い結果となった。一方、女子は2種目のみ全国平均を上回り、体力合計点は全国平均より約3.0ポイント低い結果となった。児童質問紙より「運動やスポーツをすることは好きですか」の最も肯定的な回答をする児童の割合は、全国平均より、男子は7.8%高く、女子は9.7%低く回答している。また、「体育の授業は楽しいですか」の肯定的な回答が男子では100%、女子では72.4%の結果より、男子は運動に好感をもって、女子は持ていない傾向であることが窺える。

1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子7.2%、女子16%となり、全国平均より男子は1.6%、女子は1.3%ともに少なかった。このことから、体育の授業の工夫を図りながら、普段より体育の授業以外の運動をする時間を確保し、継続して運動する習慣を養い、体力向上につなげていく必要がある。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校は、2時間目と3時間目の間の休み時間を20分間とって、児童が運動場で遊べる時間を確保している。また、放課後の校庭開放も安全・安心してボール遊び等ができる環境を提供し、下校時刻まで1時間以上活動できるようにしている。本調査の該当学年である5年生も、放課後に運動場で多くの児童が汗をかきながら、鬼ごっこ、ドッジボールやバスケットボール等の球技を中心に活動している様子がみられる。

「ちょこっと運動」（単元につながる工夫した運動）を授業のはじめにとり入れたり、運動委員会主体で耐寒運動（なわとび・かけ足）を実施したりして、体力向上に取り組んだ。さらに、なわとびカード、かけ足カードを活用して、休み時間も進んで体力づくりに取り組む児童も増えてきている。

児童アンケートから、体育の授業が楽しくなる理由として「競技のコツやポイントがわかれば」「自分のペースでできれば」という意見が出ている。来年度に向けて、体育の授業の中で、楽しく運動しながら、体幹を鍛えたり柔軟性や機敏性など運動能力が向上する取り組みを実施していく必要がある。さらに、男女ともに運動の習慣化がさらに定着し、体力・運動能力の向上に向けて、運動の機会、安全・安心な環境の提供を促進していく。